今週の為替相場見通し（2017年7月18日）

総括表		先週の値動き				今週の予想レンジ		
		注	レンジ			終値			
米ドル	（円）		112.26	～	114.49	112.55	110.50	～	114.20
ユーロ	（ドル）		1.1370	～	1.1489	1.1469	1.1300	～	1.1600
（1ユーロ=）	（円）		128.50	～	130.76	129.04	126.50	～	130.50
英ポンド	（ドル）		1.2812	～	1.3113	1.3099	1.2900	～	1.3111
（1英ポンド=）	（円）	*	145.28	～	147.78	147.39	145.50	～	148.00
豪ドル	（ドル）		0.7587	～	0.7835	0.7827	0.7700	～	0.8000
（1豪ドル=）	（円）	*	86.53	～	88.14	88.11	86.50	～	90.00

（データ）先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1．米ドル

為替市場第一チーム　和地 淳史

（1）今週の予想レンジ：　110.50　～　114.20　円

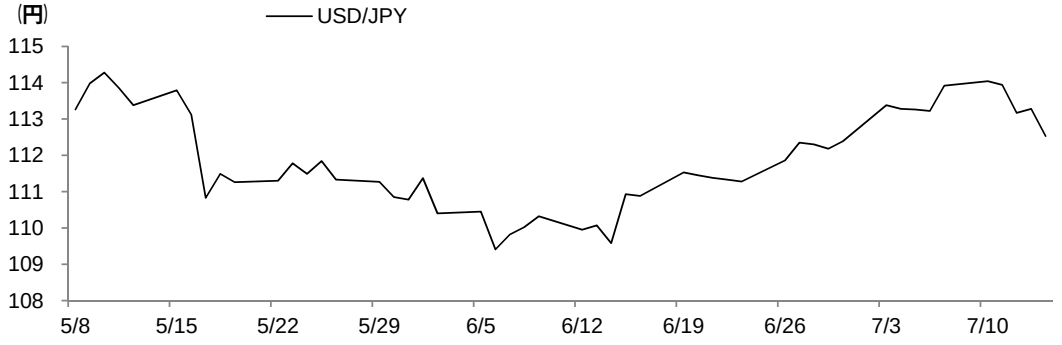
（2）ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、週後半に下落する展開となった。週初10 日に114 円近辺でオープンしたドル/円は、米6月雇用統計後の流れを引き継いだ底堅い株価を背景に114 円台前半まで上昇。11 日にはウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁が「バランスシート縮小の早期着手を予想」と発言したことに加えて、金利が上昇したにもかかわらず底堅く推移する株価と堅調なクロス円の動きにサポートされたことでドル/円は一時週高値となる114.49 円をつけた。しかし、トランプ米大統領の長男が選挙期間中にロシア政府の弁護士と面会したと報じられると反落。更に、ブレイナードFRB 理事が追加利上げに慎重な姿勢を示したことを受けて113 円台後半まで下げ幅を拡大した。12 日も上値重い雰囲気が続く中、注目されたイエレンFRB議長の議会証言では、物価の先行きに対する不透明感に言及した部分がハト派寄りと解釈され、113 円を割り込む展開。その後は、底堅い株価や押し目買いの動き、日銀が物価見通しを引き下げる可能性との報を背景に113 円台を回復する場面が見られたものの、14日には注目の米6月消費者物価指数（CPI)が市場予想を下回ったことで再び下落。同時に発表された米6月小売売上高も予想を下回る弱い内容となったことで、米金利とともにドル/円は一時週安値となる112.26円まで下落する場面がみられた。その後は、底堅い米株を受けて112円台半ばまで下げ幅を縮小して越週。

今週のドル/円相場は、上値重い展開を予想。7月に入っても底堅く推移してきたドル/円だったが、先週末の米経済指標の下振れを受けて今月に何度かサポートされてきた112.70～80円付近を明確に割り込んだ状況。ボラティリティ相場は依然低水準で推移しているものの、6月中旬からの上昇トレンドも打ち消す動きとなったため、短期的には揉み合いか上値重い展開となる可能性が高い。また、暫くは各要人が指摘するように低いインフレ圧力が一時的かどうかを見守る必要が出てきたため、米金利は上昇しにくいか。FRBがブラック・アウト期間に入る中、今週の注目は20日(木)の日銀金融政策決定会合とECB政策発表となる。日銀の会合では政策の現状維持が見込まれるため、展望リポートが焦点となろう。基本的には直近の日銀指し値オペによって日銀のスタンスは確認できているが、目標達成時期の先送りと捉えられる流れとなれば、多少円高方向に反応するか。また、市場は既にECBの緩和縮小にやや前のめりの状況となっていることを考えれば、ECB前後に欧州金利の一時的な低下が見られる可能性は高く、影響を受けたクロス円・ドル/円の下攻めには注意。

（3）先週までの相場の推移

先週（7/10～7/14）の値動き：　安値　112.26　円　高値　114.49　円　終値　112.55　円



（資料）ブルームバーグ

2．ユーロ

為替営業第二チーム　西谷 鷹

⑴ 今週の予想レンジ：　1.1300 ～ 1.1600　126.50 ～ 130.50 **円**

⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

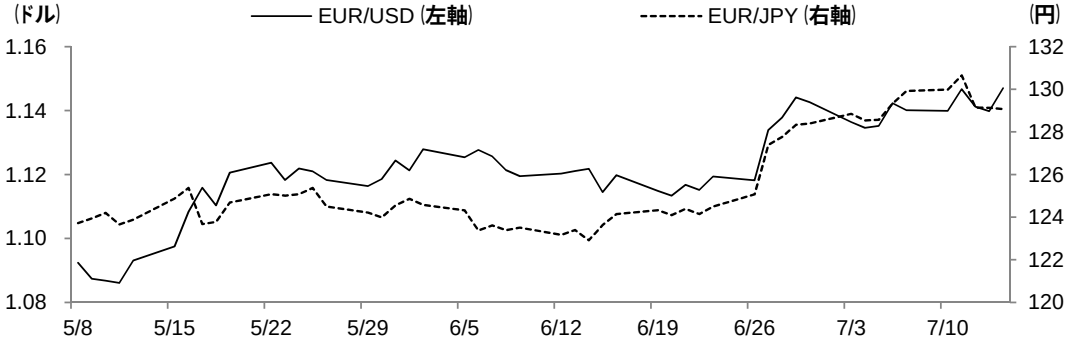
先週のユーロ相場は上昇する展開。週初10日に1.14近辺でオープンしたユーロ/ドルは、欧州株の上昇に連れ高となるも、週央にイエレンFRB議長の議会証言を控えて様子見ムードが強く、引けにかけて1.13後半まで売り戻された。11日はトランプ米大統領の長男がロシア政府の弁護士と面会したとの報道や、ブレイナードFRB理事によるハト派発言を背景に1.14台後半まで急反発した。12日には一時週高値となる1.1489をつけたが、同水準では売り意欲が強く1.14台前半まで反落。イエレン議長による議会証言の原稿発表直後こそ上昇するも、ドル/円が下落するとユーロ円の売りが強まり、ユーロ/ドルは1.14割れまで値を下げた。13日はドル売り優勢地合いにユーロドルは1.14台後半まで反発したものの、利益確定と見られる売りフローに押されて週安値となる1.1370まで急落した。その後、ドラギECB総裁が8月のジャクソンホール会議に参加するとの報道を受け、金融緩和の「出口」に関する発言が期待できるとの見方が広がり、ユーロドルは1.14近辺まで値を戻した。14日は北米時間に発表された米6月小売売上高、米6月消費者物価指数（CPI)がどちらも市場予想を下回る結果に米金利低下・ドル全面安の展開。ユーロドルは1.1470近辺まで上昇し、ほぼ同水準の1.1469で越週した。

今週のユーロ相場は上に往って来いの展開を予想する。足許のユーロは上昇圧力が強い状況が続いている。きっかけとなったのは6月27日のドラギ総裁による「ECBは政策手段のパラメーターを調整（政策正常化）することで景気回復に対応することが可能」との発言である。また足許、インフレ率が下押ししている要因についても「一時的」との認識を示した。同発言を受けて市場は欧州金利上昇・ユーロ高の反応を見せており、独10年債利回りは30bp超、ユーロは200pips超上昇する動きとなっている。かかる中、先週のユーロは1.15こそつけていないものの（週高値1.1489）、ECBの緩和縮小期待が根強い中で中期的にユーロ高を見込む向きは多く、同水準を上抜けするのは時間の問題と思われる。今週は20日（木）にECB理事会が開催されるが、同会合を前にECBのタカ派期待を背景に一時的に1.15の大台を上抜ける場面はあると考えている。しかし、急激なユーロ高の進行はECBの本意とするところではなく、またマーケットの期待がやや前のめりになり過ぎている印象は否めない為、クールダウンさせる意味でも意図的にECBがハト派色を強めてくる可能性は高い。今会合で政策変更する可能性はほぼ無い為、注目はドラギ総裁の会見であるが、同会見が市場の想定よりもハト派寄りの内容となれば、積み上がっているユーロロングポジションの調整が相応に進むことになるだろう。但し、中期的に見ればECBの緩和縮小（テーパリング）の流れは不変と思われる為、ユーロ高を基本線とする見方は継続と考えている。今週のユーロ圏の目立った経済指標は18日（火）にユーロ圏6月CPI、独7月ZEW現況/期待指数などの発表が予定されている。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（7/10～7/14）の値動き：

（対ドル）	安値 1.1370	高値 1.1489	終値 1.1469
（対円）	安値 128.50	高値 130.76	終値 129.04



（資料）ブルームバーグ

3．英ポンド

欧州資金部　本多 秀俊

⑴ 今週の予想レンジ：　1.2900 ～ 1.3111　145.50 ～ 148.00 **円**

⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

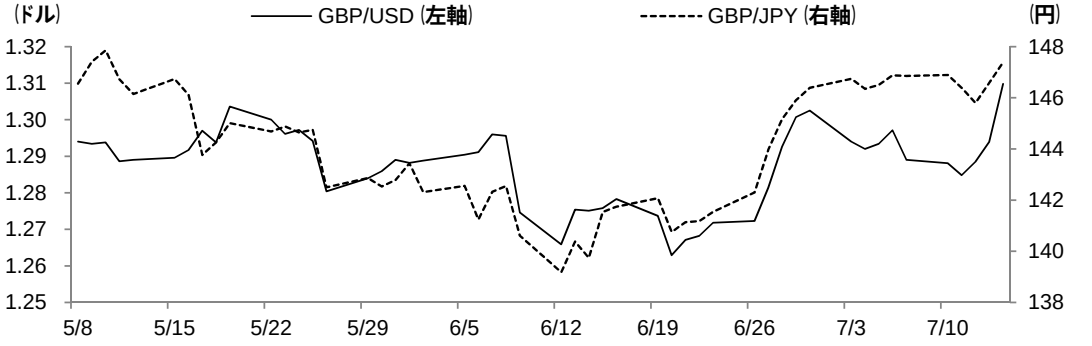
先週の英ポンド相場は、対ドルでは軟調気味の横ばい先行から上昇。対円、対ユーロでは下押しが先行したものの、その後反発し、対円では週を振り返って概ね横ばい、対ユーロでは小幅上昇した。11日、英中銀ブロードベント副総裁の講演は、6月の金融政策委員会では金利据え置き票を投じた同副総裁から、利上げに前向きな姿勢が聞かれる可能性が警戒された。しかし、同副総裁は金融政策には言及せず、それに失望した通貨市場は、対円、対ユーロなどでポンドを売り込み、特に対ユーロで翌12日までに0.8949と8か月ぶりの安値を更新した。12日発表された英雇用統計は、3～5月平均賃金（除賞与）が市場予想を小幅上振れるなど、若干強めの内容となったものの、いずれにせよ物価上昇を加速させるほどの水準にはないとの認識で材料視されず。その後通貨市場の関心は、米連銀イエレン議長の議会証言（12日下院/13日上院）へと移っていった。同議会証言に対する市場の評価は「思った程追加利上げに積極的でない」といったもので、ドル全面安のきっかけとなった。更に、14日発表された米6月CPI、同小売売上高が市場予想を下振れたことでドルは続落。並行してポンドは、対ドルのみならず、対円、対ユーロでも堅調に推移したが、金融政策動向が通貨市場の原動力になる局面でポンドの堅調が目立ったのは、やはり、近い将来の英中銀利上げに対する期待感がその根底にあったものと考えられた。

今週の英ポンド相場は、軟調推移を予測。ポンド軟調を予測する理由は、ひとつには近い将来の英中銀利上げの可能性に懐疑的なことと、もうひとつは英のEU離脱交渉に進展が期待できないこと。票読みだけを見れば、5月の7対1から6月の5対3に利上げ票が増えた事実は、利上げに向けた大きな前進にも読めるが、3月から利上げ票を投じてきたフォーブス委員は先月で退任、サンダース委員、マカフェティ委員が仮に利上げ票を投じ続けたとしても、実際に利上げに踏み切るには少なくともあと3委員の変心が必要という計算になる。足元ポンド相場の落ち着きや、原油価格の安定を鑑みるに、前年比でのベース効果が物価押し上げ圧力となる可能性は当面考えられず、金融政策委員会の大勢が近い将来利上げに傾く可能性は考え難い。EUと英の離脱交渉（第2回）は17日に再開されたが、バルニエ主席交渉官らEU側が書類の束を抱えて交渉の席に臨んだのに対し、デイビス離脱担当相ら英側は手ぶら。交渉への意気込みを測るのに書類の量が重要と言う訳ではないが、デイビス担当相らの態度は、債務再編交渉に手ぶら（腹案なし）で現れたファルファキス元ギリシャ財務相を彷彿とさせ、今後の交渉の行方に大いなる不安を投げ掛けた。また、報道によると、デイビス担当相らは、交渉もそこそこに数時間でブリュッセルを離れ帰英したとのこと。お膝元のロンドンでは、閣内でハモンド財務相と他閣僚との亀裂が深まっているとの漏洩情報も聞かれ、弱体化したメイ首相が、閣内をまとめるのに大童で離脱交渉どころではないという混乱ぶりも透けて見える。経済指標では、今週、18日（火）に英6月CPI、20日（木）に英6月小売売上高、21日（金）に英6月財政収支などの発表が予定されるが、余程市場予想から乖離した数字でも出ない限り、ポンドが関心を払う可能性は低い。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（7/10～7/14）の値動き：

（対ドル）	安値 1.2812	高値 1.3113	終値 1.3099
（対円）	安値 145.28	高値 147.78	終値 147.39



（資料）ブルームバーグ

4．豪ドル

為替市場第一チーム　森田 大貴

⑴ 今週の予想レンジ：　0.7700 ～ 0.8000　86.50 ～ 90.00 **円**

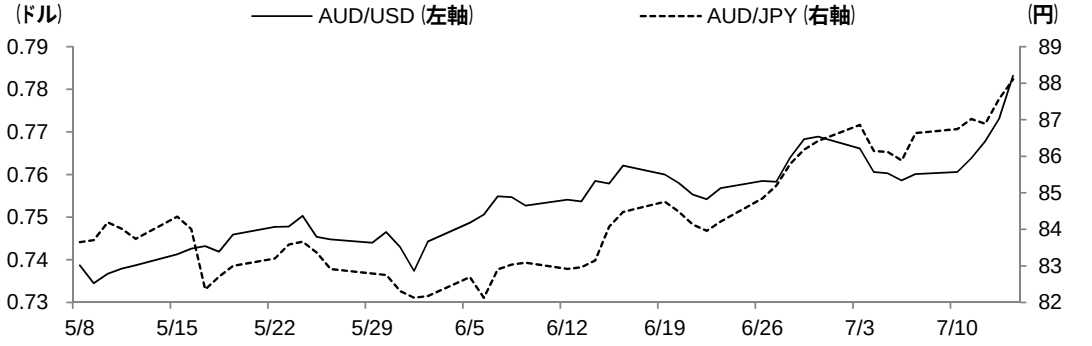
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は、対ドル・対円ともに上昇する展開。週初10日は対ドルで0.76ちょうど付近、対円で86円台半ばレベルでオープン後、12 日のイエレンFRB 議長による議会証言やカナダ中銀（BOC）の金融政策決定会合といったイベントを控えて小動きとなった。翌11日には、トランプ米大統領の長男が選挙期間中にロシア政府の弁護士と面会したと報じられたことや、ブレイナード FRB 理事が追加利上げに慎重な姿勢を示したことが材料視されドル売りの展開となり、翌日もこの流れを引き継ぎ豪ドルは対ドルで0.76台後半まで上昇。その後も、イエレンFRB 議長の議会証言を受けた欧米長期金利の低下や株高を好感し、じり高推移となった。13日には、中国6月貿易統計が良好な結果となったことから、豪ドルは対ドル・対円ともに堅調に推移し、それぞれ0.7740レベル、87円台半ばまで上昇。さらに、翌14日には米6月小売売上・消費者物価指数（CPI）が共に市場予想を下回る弱い数字となったことからドル全面安の動きとなり、豪ドルは金をはじめとした資源価格が上昇する動きにもサポートされ、対ドルでは0.78台へと急伸し、週間高値となる0.7835まで続伸した。対ドル、対円それぞれ0.7830、88円ちょうどレベルの高値圏で越週した。

今週の豪ドル相場は底堅い展開を予想。先週の一連のFRBメンバーの発言や、週末に発表された米経済指標の下振れを受け、週間で見ると豪ドルは主要通貨の中で最大の上げ幅を記録した。テクニカルから見ると対ドルでは3月に上抜けに失敗した0.77台半ばのレジスタンスを明確にブレークし、約2年振りの高値水準へと上昇する格好となっている。需給環境に鑑みれば、低ボラティリティの環境下でクロス円での買いも見られることに加え、直近高値圏でも海外勢の買い意欲は強い。他の主要中銀とは対照的に、豪州準備銀行（RBA）からは利上げに積極的な姿勢は感じられない。しかし、米国では低インフレが意識され金利の先高感が後退する中で、株が堅調に推移している状況下、豪ドルは引き続きサポートされやすいか。加えて、週初17日に発表された中国の一連の経済指標が良好な結果となったことや、原油や鉄鉱石といった資源価格が足許堅調に推移する動きも豪ドルのサポート要因。今週は、18日（火）にRBA議事録、20日(木)に豪6月雇用統計が発表される。7月のRBAでは、一部で警戒された声明文のタカ派化が実現しなかったことで豪ドル相場は大きく下落する展開となったことから、特に議事録への反応には注意が必要となろう。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（7/10～7/14）の値動き：　（対ドル）安値 0.7587　高値 0.7835　終値 0.7827
（対円）安値 86.53　高値 88.14　終値 88.11



（資料）ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。